

- 1 件 名 第 7 回アリーナ整備検討会議
- 2 日 時 令和 8 年 1 月 16 日(金) 15:00~16:30
- 3 場 所 本庁舎3階 第三会議室
- 4 会議内容

【15:00 開会】

(司会)

それでは定刻となりましたので、ただ今から第7回アリーナ整備検討会議を開催いたします。

皆さま、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。司会を担当いたします、岡山市スポーツ文化局の宮本と申します。よろしく申し上げます。

本日は、一般社団法人岡山経済同友会常任幹事の野田様にご欠席のため、久山専務理事・事務局長が出席されております。

また、岡山商工会議所副会頭の高谷様、公益財団法人岡山県スポーツ協会副会長兼専務理事の松井様にご欠席でございます。

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

まず初めに、本日の次第、次に、整備検討会議のメンバー表。

次に、配席表、その次に資料1、アリーナ整備事業について(令和7年11月補正予算説明資料)、続いて資料2、アリーナスケジュール案について、続いて資料3、アリーナ事業説明会チラシ、資料4アリーナ整備に係る寄附の状況について、その下に資料番号は振っておりませんが、ご寄附の資料が2枚ありまして、企業版と個人版のチラシ、以上でございます。お手元におそろいでしょうか。

それでは、開会にあたり、座長の大森市長からご挨拶を申し上げます。

(大森座長)

皆さんこんにちは。お忙しい中、第7回のアリーナ検討会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

令和6年8月から始まったこの会議も7回目ということになりました。

皆さん方との議論を踏まえて、事業化の案を、去年11月の議会に提出させていただきました。

今日は議長もお越しでございますけれども、議会でも活発な議論があった後、多くの賛成者をいただきまして、無事可決をしたところであります。

ポイントとなったものは何なのかということを考えてみると、今日もトップチームの方、大勢ご参加をいただいておりますけれども、トップチームの活動を継続させるということ。

そして、アマスポーツにおいても、非常に会場が逼迫しているという現状。

そして、採算性の面もありましたけれども、さまざまなイベントを行うことによって、岡山市民、また県民の方々が、わくわくして楽しんでいただく、そういった状況を作ること。

そういったことが、議員の皆さん方にご認識をいただき、経済界の要請から始まったこの会議でありますけれども、無事決着をしたのかなと思っております。

これからは、具体的に動き出すということでありまして、その前に、今日は11月の市議会での議論の内容、今後のスケジュールについて説明をさせていただき、経済界そしてトップチームとともに、岡山市一体

となつてがんばっていきたいと思いますので、今日は忌憚のないご意見をいただければと思います。
よろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、副座長の岡山商工会議所松田会頭からご挨拶をいただきたいと思います。
お願いいたします。

(松田副座長)

皆さんこんにちは。

本年初めてお目にかかります方いらっしゃいますけども、今年もよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

市長選もあったんですけど、私ども商工会議所も去年は選挙イヤーでございました。

そして組織を変えて、副会頭6名体制になりました。今日は欠席をいたしましたけれども、高谷副会頭は特別委員長を担当する部会等で、この特別委員会とは何かというと、アリーナを建設するという方向に向けて検討する委員会でございます。今日の出席をさせていただいております服部副会頭は、特別委員会の委員長も兼ねておまして、服部副会頭は、スポーツ支援委員会を担当する副会頭でございます。

6人のうち2人がスポーツを応援していくという体制で、新たに臨むということになりました。

いよいよ、7回を迎えるアリーナ整備検討会議ですけれども、これまでとは違って、やる、やらないという議論ではなくて、いよいよやるという方向でスタートラインに立って、どうやってやるかっていう議論がやっと開始されるなということで、本格的な議論を期待しております。

この前、まだやるかやらないかという段階でございましたけれども、建設費がずっと膨らんできたという中で、我々民間にも大いに寄附金を期待するということであったので、私どもでも、市の皆さん方と一緒に民間をまわらせていただいて、どのぐらいの応援をしていただけるかということ、それも始めたころは非常に不安だったわけですが、断られるところがまずなかった。そして額面も、これだけお願いしますと言ったのを減額してくれといったところもなかった。言った通りの額を、はいわかりましたということで、本当に二つ返事でお答えいただいて、気持ちよくご寄附をいただけるという企業がたくさんありました。

今のところですが、当局の予算上足りないと言われている50億のうちの、大体27億、28億ぐらいのあたりが、ご協賛いただけるという額でございます。

その他の多くの企業の皆さん方にも、これからもご賛同いただけるものと考えております。

また、もちろん全員がこのアリーナに向けて賛成しているというわけではなくて、やはり反対意見を持っておられる方もいらっしゃるわけですが、私としては、そういう反対意見を説得するというのではなくて、要するにこういうことなんだという、アリーナというものの価値をご理解をいただくことに努めて、皆さん方にお話をさせていただければと思っています。

岡山市の方でも、デモテープを作っていたりとか、あるいはいろんな資料を作っていただいて、積極的に多くの市民の皆さん方の賛同を得るという体制ができているわけですが、できれば、実際にアリーナがどういうことなんだというのを見学できるようなツアーを企画していければありがたいと思っていますので、その際にはまた、岡山市の方にご協力をお願い申し上げたいと思いますし、また今日ご参加の委員の皆様方のご協力を得て、より多くの皆さん方の賛同を得て、具体的にアリーナがどういうものになっていきたいかということの方向性を目指していくための議論を展開したいと思いますので、どうぞ

よろしくお願いいたします。

いつありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして、顧問の岡山市議会田口議長からご挨拶をいただきたいと思います。

田口議長、お願いいたします。

(田口顧問)

はい。皆さんこんにちは。

ご紹介いただきました、岡山市議会議長の田口でございます。

今、市長の方からもお話がありました通り、11月に市当局から議案として出されました。

我々岡山市議会といたしましても、大変な時間を要して、質問のほとんどはアリーナぐらいの、アリーナ議会と言っても不思議じゃないぐらい、アリーナのことについて賛成の立場、そして反対の立場、そうした立場での質問をし、そしてそれに対して、市長を含めて当局の皆さんが答弁をし、そして、本当にいい議論を尽くした中で、賛成多数で決まり、いよいよスタート台に立ったわけであります。

これから検討委員会の中で、またいろいろと建設に向けて、どうということをしていくかというような議論が活発になろうかと思えます。

実はいいますと、その中で、私はもうちょっとショックというか、これはまあしょうがないですけど、我々岡山市議会の元議長さんと元副議長さんが、制度があるとはいえ、二元代表制を無視した形での署名活動かな、そういうことを新聞等で読んだんですけど、私は制度があることを決して否定するわけでもないですし、それについてそれはそれで慎重に受け止めなければならない、ただその代表者である人たちがやはり二元代表制の一翼を担った元議長さん、副議長さんというのは、議会を無視した形でそれに対して、大変残念だなというような思いがします。

それから、もう1点だけ、これは市議会議長としてではなく、でもいいですよ。

この日曜日に二十歳の集いを寒い中やりましたよね。私の知っているお孫さんも、晴れ着を着て二十歳の集いに出ました。

大体3,000人ぐらいですかね。で、全部、外なんです。JFEの晴れの国スタジアム。県の陸上競技場。ふと考えると、3,000人をひとつの屋根のついたところに入れる施設は岡山市にはない。

だから、政令指定都市で3,000人5,000人規模のそうした箱すらない。政令指定都市の岡山市としてどうなのかなというのを、寒い中、晴れ着を着て本当に寒い中、皆さんが二十歳の集いをしたというのもあって、やはり、全国で20市の政令市の岡山市が、必須のこととしてこれからはアリーナをしていかなければならないと思えます。

そのためには、今後も工程説明があると思いますが、市民の皆さんにしっかり納得をしていただき、そしてアリーナとはこういうものだよ、岡山市にとってはこれは絶対必要なものですよっていうようなことを、しっかりやっていただきたいなという思いであります。

今後とも検討委員会、ますます議論を活性化して皆さんで頑張ってください。

そして、岡山市議会としてはそのことを受けて、これからもしっかり議論に取り組み、賛成、反対の議論をしっかり出しながら、当局に対して緊張関係を持って取り組みたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。今日は本当にどうもご苦労さまです。

ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。

それではこれより議事に入りますが、進行は座長の森市長にお願いしたいと思います。
よろしくお願いたします。

(大森座長)

それでは、座長ということで進行を進めさせていただきます。

ちなみに今、田口議長から、成人式、二十歳のつどいについてお話がありました。

確かにこられた方は3,000人なんですけど、招待しているのは7,000人です。3,000人が入る場所があってもそれではちょっとまずい。直接関係ありませんが。

それでは、お手元の資料、次第に沿いまして進行させていただきます。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

スポーツ振興課の吉田です。

それでは、(1)アリーナ整備について、11月の補正予算及び、(2)今後のスケジュールについて一括してご説明いたします。

まず資料1をご覧ください。岡山市が検討を進めてきたアリーナ整備事業につきましては、先ほど市長からお話があった通り、昨年末の11月議会において、事業を進めるための関連予算を承認いただき、事業化が正式に決定したところです。

資料の中央部分、補正予算概要をご覧ください。

具体の予算概要といたしましては、①アリーナ整備事業として、測量、地質調査等の委託料4,800万円。アリーナ整備に係る寄附金募集及び受入業務の委託料2,750万円。

②といたしまして、国補公園緑地整備事業として、北長瀬未来ふれあい総合公園の駐車場進入路の改修で2,680万円。

③といたしまして、単独道路新設改良事業として、計画地周辺環境整備のための道路改修で2,450万円。

以上、合計1億2,680万円を、関連歳出予算として計上いたしました。

あわせて、アリーナ整備運営事業者の募集選定を行うための事業者選定等支援業務委託について、8,000万円の債務負担行為の設定と、スポーツ文化振興基金に寄附金を積み立てるための歳出予算、2億5,000万円を合わせて計上しております。

議会では、市の財政への影響、さらなる周知機運醸成の必要性などについて活発な議論を経て、賛成多数により可決されました。

続きまして、(1)今後のスケジュールについてご説明いたします。

資料2をご覧ください。上段がアリーナ完成までは大まかなスケジュールとなります。現在、一番上のオレンジの部分、アリーナ整備運営事業者の募集選定、24ヶ月程度を想定しております。この業務をご支援いただき、事業者の募集を行っているところでございます。2月中には受託事業者を決定し、約2年をかけ、事業者の募集選定、これはアリーナの整備運営事業者の募集選定を行います。

アリーナ整備運営事業者の決定後、事業者からの提案により、スケジュール変更の可能性はありますが、2行目のブルーの部分、設計で24ヶ月、緑の部分、建設で33ヶ月程度、こちらの期間を要し、2032年度中の開業を予定しております。

続きまして、下段のスケジュールです。こちらは、上段の募集選定の24ヶ月の部分の詳細スケジュールを記載したものとなります。

大きなタイミングといたしましては、令和8年6月議会にて、アリーナ整備の実施方針に関する条例や、アリーナ整備運営事業者を決定する選定委員会の設置条例を制定いたします。

その後、令和8年11月議会において、アリーナ整備費の予算計上を予定しております。

事業費の承認をいただけましたら、令和9年の2月ごろからアリーナ整備運営事業者の募集を開始し、令和10年の2月議会を経て、契約締結を行う予定となります。

続きまして、資料の3をご覧ください。

事業説明会のお知らせのチラシとなります。

先の11月議会でも、さらなる周知・機運醸成の必要性について、多くのご指摘をいただいたところでございます。

それを踏まえまして、1月21日水曜日を皮切りに、4月まで、毎月1回北長瀬未来ふれあい総合公園内の、みはらしプラザにおきまして事業説明会を開催いたします。

時間内はどなたでも自由にご来場いただき、ご要望に応じて個別に対応するオープンハウス形式での実施となります。

整備事業についてのパネル展示等もしておりますので、皆さんもぜひ、足をお運びいただければと思います。

この事業説明会の他にも、みんなでアリーナについて考えていくワークショップの開催、そういったことにも積極的に取り組み、本事業の周知と機運醸成に努めていきたいと考えております。

事務局からは以上です。

(大森座長)

ありがとうございました。

吉田さんね、寄附募集、一緒に説明していただけますか。資料4の。

(事務局)

はい。

それでは続きまして、(3)の寄附募集について、続けてご説明いたします。

資料の4をご覧ください。寄附の受入れにつきましては、昨年12月18日より開始しております。

現在は寄附申出書による受付のみとなっておりますが、1月22日より、オンラインでの受付を開始する予定となっております。

法人の場合は、岡山市アリーナ整備寄附申し出フォーム、こちらの方から、個人の方は、ふるさと納税サイト、さとふるが運営いたします、さとふるクラウドファンディングからの申し込みとなり、Web上で寄附金の決済まで行われるなど、より手続きのご負担少なく、ご寄附をいただけるようになります。

次に、寄附の種類と申し込み方法についてです。

法人の場合は、本社所在地により、通常の寄附か企業版ふるさと納税を選択いただき、岡山市アリーナ整備寄附申し出フォームから申し込みをいただくか、寄附申出書を市の方へご提出いただく流れとなります。

す。

個人の方は、市外・市内に関わらず、個人版ふるさと納税として、さとふるクラウドファンディングから申し込みするか、寄附申出書を市へご提出いただく流れとなります。

なお、現在の寄附金の受入れ状況ですが、1月9日現在で、法人10社から約計2,500万円、個人9人から計137万円の合計2,637万円となっております。

続きまして、法人への依頼状況については、1月9日現在、106社から寄附のお申し出をいただいております。うち10社が実際に寄附をいただいております。

なお、備考欄ですが、アリーナの事業化を決定したことにより、これまで市やトップチームから直接依頼を行っていなかった企業3社から、直接市へ寄附の申し出をいただいております。

なお、現在の寄附見込み額といたしましては、106社からの申し出額として総額28億5,810万円となっております。

最後に、このたび市の方で作成いたしました、企業向けの個人向けの寄附募集用のチラシを添付しております。

今後は、このチラシを活用し、経済界・トップチームとともに、新規法人への依頼を増やすとともに、現在検討中となっております223社につきましても、寄附の実施に向けた働きかけを行い、より一層の寄附獲得に向けて取り組んで参ります。

説明につきましては以上です。

(大森座長)

それでは皆さん方の意見を、今日は、せっかくの機会ですから1人ずついただければと思います。

まず私の方から、この数か月の間、あったこと、感じたことを少し申し上げたいと思います。

先ほど松田会頭が、説得するのではなくて、まず実感として味わってもらおうという話がありましたが、私も全く同じでありまして、実は、アリーナ1つあるじゃないか、もういらんというふうな方がいらっやいました。

確かに今、運動公園にあるのもアリーナという名前であるわけで、今、我々が作ろうとしているアリーナとは何かというのは、なかなかやっぱりよくわかっていただけない。

事務局の方で動画を作成しています。それを見ると、ああこんなもんのかっていうことはあるのですが、それにしてもなかなか直接見てみないとわかりにくいっていう感じはいたしました。

少なくとも、4文字のアリーナだけでものを理解していただくのは本当に大変だっていうように実感したのが一つであります。

それから、今のシゲトーアリーナは、私もこの議論をやるまでよくわからなかったのですが、この前、第6回の場で、松井岡山県スポーツ協会の専務理事さんが、1年365日のうち358日使用をしているんだと。時々プロスポーツの方から、土日なかなか取りにくいって話は聞いていたものの、そこまでの状態になっているんだっていうのは、初めて知ったところであります。

従って、一般の方は、今の運動公園、シゲトーアリーナの逼迫状況というのは、ほとんど伝わっていないのではないかなという感じがいたしました。

もう1つは、市の財政にどれだけの影響があるかっていうのもありましたが、そこは説明すると、割と早めに分かっていただいたところですが、僕からみて4点目としては、作るの作るとして、それから大丈夫かっていうことをおっしゃる方がいらっやいます。

その辺、もう100%、120%完全にもう見えているとは言えないまでも、今やっぱり、BTコンセッションで、

複数の企業の方がぜひ岡山中でやってみたいという話もされている。そんな状況でいくと、ここは、最後、民間の方々の判断ということになるんでしょうが、我々としては、十分採算性が取れるのではないかな、そういう説明をさせていただいているところであります。

特に今、担当から話がありましたけど、アリーナって何っていうところを知っていただき、そこを、この北長瀬で4回の説明会で、できるだけのことをやらしていただきたいなというように思っております。

それでは恐縮ですが、松田会頭から服部さん、高橋さんという順番で、最後田口議長、そういうことにさせていただきたいと思っております。

松田さん、よろしくお願いします。

(松田副座長)

改めまして皆さんよろしくお願いします。昨日、今治FCの岡田オーナーにおこしいたきて、日本政策投資銀行のセミナーで真吉備会というのがあって、そこで会長させていただいたんですけども、非常に熱のこもったお話をいただきました。

何もないところからスタジアムを作って、今治FCは今、J2まで、上り詰めてきたわけですけども、ファジアーノと戦えるようになったことを楽しみにしておりましたが、ファジアーノがJ1に行きましたので、お互い戦うことはできなかつたわけですけども。

5,000人規模のスタジアムを独自の力で作られて、あんまり今言うとなれですけども、いわゆる民間の力で民間が運営するっていう、スタジアムの建設方式ですね。40数億円かかったやつを全部集めたとおっしゃっていましたが、その間、非常に岡田オーナー、監督がですね、初めての街、今治で今まで誰も知らないところから始めて、私は岡田ウィルスと呼ばれているんですけど、みんな感染していくんですよ、この力がやっぱり必要なんだなというふうに思いました。

今日スケジュールが示されましたけれども、本当にスタートラインに立ってやるという方向で議論を進めていくので、皆さん方でやると、個々がこうウィルスみたいになって、岡山の市民の皆さん方、県民の皆さん方に感染者が増えるぐらいの勢いで、ぜひアリーナ建設を進めていきたいと思っております。

また、岡田さんのことですから、スタジアム建設についてももちろん語られて、岡山にも、もちろんスタジアムもアリーナも必要だということでございました。

ああいう元気を語る方の中で、こういう話があったんですね。

教会といいますか、要するに宗教をやろうと思うと教祖、教本、信者、教会がいるんです。教会がなきゃ何もできないんです。やっぱり箱物って絶対要るんだっていう。

教祖は私ですと、教本は岡田メソッドってあるんです。そこに集う方、信者がいらつしゃって、教会を作ったんですけど、こういうことで非常にわかりやすい話でございました。

今日、成人式といいましようか、二十歳を祝う会といいますでしょうか。この方々のご招待で箱が実はないんだというお話があったわけですけども、スタジアムとアリーナとって言ったときに岡田さんが、スタジアムはそのためだけしか使えないけれども、アリーナはいろいろなことに使えるので、運営はスタジアムより楽ですよとおっしゃっていただきました。

まさに、多目的で使える、そういったアリーナが市民の多くの皆様方に受け入れられて、よりよいものができるようにみんな頑張りたいと思っております。

7年後ということでございますので、私もアリーナのために岡山中で骨をうずめるつもりで頑張るわけですけども、本当にうずまるかもしれないというぐらい頑張っていきますので、よろしくお願い申し上げます。

(服部氏)

初めて参加させていただきます服部と申します。よろしくお願いします。

アリーナの整備検討会議ですけれども、アリーナにはスポーツ以外のコンサートや会議とか、多目的な活用が期待されると思っています。

今、私は商工会議所の中で、スポーツを担当せよという指名をいただきましたので、スポーツを中心に議論してまいりたいと思っております。

スポーツには目に見えない様々な無形の資産がございまして、それらが重要な役割を出していると考えております。昨年度も、ファジアーノの●●があり、インターハイも岡山県で開催されましたし、実際会場へ足を運んで応援すると、やはり体育館だなと感じました。

そこで、そういったことを感じましたので、ぜひ、会議所の中でも、あるいはこれから議論されていく中でも、複合的な観点から、アリーナを考えていくところが大切ではないかと考えております。

もちろん私は経済界の代表でここに座っておるのですけれども、経済的な価値だけではなくて、社会的影響力あるいは文化的な価値がありますし、宗教やグローバルの連携なども、十分これからそういう複合的な観点からこのアリーナを検討していくってことは必要だと思います。

スポーツが様々な開催される舞台ではあると思うんですけども、アリーナはそういった無形資産の集合体であるという、そういったことを十分議論していきたいと思っております。

よろしくお願いします。

(高橋氏)

商工会議所専務理事の高橋でございます。

まずもって、この新しい年に、昨年、大森市長のご決断をもとに、事業を進めるということ、そしてそれを前提に今日の会議が開かれるということ、本当に嬉しく思います。

長い道のりだったなという気がいたしますが、今日さらに、今後のスケジュールをお示しいただいたということで、また、気持ちを新たに組み込んでいきたいと思っております。

先ほど市長のお話もありましたが、やはり、物を見ないとなかなか想像ができない。そういうことから、岡山商工会議所でも、幅広く、私どもの議員の皆さんにも声をかけて、まず今できているところ、そしてそれが地域の役に立っている、活性化に大いに貢献している、そういうことをまず勉強していく。

そして、その気持ちを新たにしたところで、岡山市の今後の発展、そして将来の未来の子どもたちのためにどれだけの思いを持って、熱い思いを持って投資するのか、そういうような観点からアリーナの整備にご協力申し上げたいと思っております。

今日はどうもありがとうございます。

(神崎氏)

岡山県経済団体連絡協議会の神崎でございます。

このアリーナに関しては、私ども経済団体連絡協議会から2018年2月に市長と議長に提言したことから始まったと認識しております。

もちろんその前から、様々な議論があつてのことですので、もう10年以上検討しているということになります。

このたび、先般の議会で議決されて、具体的に進めるということになったことは、本当に喜ばしいことと私自身も感じております。

一方で、この建設に関して、反対意見もあるということも承知しております。

しかし、その反対というのは、岡山のまちの未来を真剣に考えているということの 1 つかと考えられると思います。

この議論がさらに深まるように、説明と対話を重ねながら、前に進むということ、立ちどまるわけではなく、前に進むということが大事なんだと思います。

もし、立ち止まるというようなことが、1 年、2 年経ってしまいますと、それだけのビジネスチャンスを失うという経済的な問題もございますし、社会的な視点で言えば、1 年、2 年、立ち止まることによって、そのチャンスを失った未来の子どもたちが、出てくるところに繋がってくると思います。

本日、具体的なスケジュールも示され、最低限必要な期間なんだろうと思いますが、必ず守って進めていただきたいと思います。

それから最後に、アリーナ整備事業説明会のご説明がありました。4 回予定されておりますが、長い時間をとっており、丁寧にしていただけるものと思っています。

最近、市長がよく使われる言葉で、「わくわくするような都市に」と言われておりますが、このアリーナは、「わくわく」というものを示す象徴的な施設になると思います。

ぜひ、ここ(説明会)に来た方にも、「わくわく」を感じてもらえる場づくりをしっかりといただいて、進めていただきたいと思います。

引き続き、さらなる議論を通じて、素晴らしいアリーナにしていくことを、私も協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

(久山氏)

岡山経済同友会の久山と申します。

本日は、岡山経済同友会の野田令常任幹事が欠席ということで、出席をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

この会議に、私は最初に出させてもらってそのあと出ておりません。その間、本当にいろいろご議論していただきまして、無事スケジュールが決まったということで、ぜひこのスケジュールで前に進めていただきたいと思います。

私の個人的な話ですが、先般あなぶきアリーナ香川に行きました。少し前には名古屋の IG アリーナにも行ったんですけど、正直、羨ましいというのが一番でした。

地元にあつたら、何か誇りに感じるのではないのでしょうか。アリーナはシビックプライド、郷土の誇りにも繋がるよう活用していきたいものです。

また、スタジアムですが、ピースウイング広島にも行きました。サッカーの試合がない日でしたが、若い人たちが見学に来ていらっしゃいました。

そのように考えると、反対意見を説得するというよりも、まずはアリーナを味わっていただきたいなと思います。

そのためには、ぜひ説明会等で、少しでもファンを増やす、その良さを味わっていただくためには、どこかの施設にツアーで見に行くということも検討していただきたいと思います。

私の周りにはアリーナがいないという方はいらっしゃらない。ただ、場所はいろいろ、もっと駅に近いところとか、そういう話もあるとは思いますが、遠かったら遠いところに人が集まるような仕組みを考えればよいのではないのでしょうか。

ぜひ協力していきたいと思います。

(長澤氏)

日本政策投資銀行の長澤でございます。

ご説明ありました通り、先般の議会で議決をされたということで、気持ちを新たにまたご協力させていただきたいと思います。

私の方からは、アリーナの良さを知ってもらおうという点で1つ補足のコメントなんですけれども、この会議では、これまでアリーナの仕様とか、事業手法とか、そういったことを議論して参りましたけれども、まちづくりに関する話題というのはあまりなかったのかなと思っております。

具体的には、北長瀬の地にアリーナができることで、市内の中心部ですとか、問屋町などとの連携も含めて、この場所がどう変わっていくのか、人の流れがどのように想定されるのかといった姿をできるだけ可視化して、この会議で共有して、場合によってはそれを市民の皆さんにお示していくのがよいのではないかと思います。

それによって、また違った角度でのアリーナの必要性、魅力というものがわかってもらえるんじゃないかと感じた次第です。

以上でございます。

(岩田氏)

失礼いたします。

岡山市のスポーツ文化局長しております岩田と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

私はどちらかと言うと事務局の方の立場になりますが、これまでいろいろ、何年もかけて議論をさせていただいて、やっとスタートラインに立ったということで、ここからが本当のスタートということで、身が引き締まる思いでございます。

いろいろとこれまで議論をしてきたんですけれども、まだ課題は山積みでございます。実際には、まだまだしていかないといけないことが山積みですので、我々職員一同しっかり頑張っていきたいと思います。

その手始めとして、説明会等々で、周知・機運醸成を図っていきながら、岡山市民・県民含めて、ご理解いただくということもありますし、アリーナを作るための盛り上げをしっかりとやっていきたいなと思っておりますので、引き続き皆様ご協力、ご意見等いただければと思います。

ありがとうございます。

(北川氏)

ファジアーノ岡山の北川でございます。

整備スケジュールが示されて、前に進んでいるなど大変嬉しくわくわくしているところでございます。

直接ではありませんけれども、使用団体という立場から少しお話をさせていただくと、やはりこのBTコンセッションでいくなれば、アリーナにとってもそうですけれども、主要団体にとっても相当努力しないと厳しくなってきますので、我々もこういったスポーツクラブを預かっている身とするならば、しっかり盛り上げを作っていかなければいけない。

BTコンセッションを使うスポーツ団体はますます努力をしていかなければ、非常に難しくなってくるというところがありますので、しっかり、我々はそこも受けとめて、このまちの盛り上がりを作っていきたいと思っ

ております。

以上です。

(羽場氏)

岡山リベッツの羽場と申します。

まずは、ここまで話を進めていただいているということで、大変感謝を申し上げます。

ここまで話が進んでいるということですので、我々岡山リベッツとしても、無形、有形、いろんな様々な面で後押しができるように、頑張っていきたいと思っています。

まず、無形としましては、やはり多くの方にアリーナの良さを知っていただく活動、そして、具体的に言うと、支援会場などで現在動画を流させていただいているんですが、非常に反応がよくて、やはりこのアリーナというのは岡山に必要なんだというのを、少しずつ皆さんに感じていただけているんじゃないかなと思います。

そして、有形としましては、やはり寄附金ということで、我々岡山リベッツとしては、企業訪問数は少ないものの、もうすでに3から4億円ぐらいの寄附金が一応内諾をいただいているということで、非常に企業様の反応がいいと思っていますので、我々としても、さらに、そういった提案もさせていただきながら、後押しをしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(中島氏)

トライフープの中島です。

ついにスタートラインに立つなど、ここまでお話が進んでいることは、本当にアリーナを使用するクラブとして、うれしく思っておりますし、感謝しております。ありがとうございます。

スタートラインに立って身が引き締まる思いですし、北川様がお話したように、本当にアリーナにふさわしいプロクラブ、チームになれることが一番、僕らに必要とされているところだと思いますので、実力だったり、人気だったり、岡山の子どもたちが、トライフープに入りたい、バスケットを頑張る子どもたちですけど、トライフープに入りたいと。

そういったところが実現できる、岡山の皆様に必要とされるクラブになれるように、改めて、さらに精進して参りたいと思います。

本当にここに尽きると思うので、チームができることを、もっともっと頑張っ、クラブを大きくしていきたいと思っています。

アリーナに対しては、皆様おっしゃっているように、さらに寄附金を募って行って、少しでも金額的なところを積み上げていけるように、そして、アリーナの必要性を広く知ってもらえるような、機運を高めるような行動を具体的にできるようにしていきたいと思っています。

私からは以上です。

(高田氏)

岡山シーガルズの高田です。

いつもありがとうございます。

ここまでいろいろとご決定いただいて、感慨深いものがあります。

本当にありがとうございます。

シーガルズ、この前、SAGA アリーナで久光のホームゲームに出たんですけど、コートがとても明るくて

観客席が暗い、ここでプレーをする選手のモチベーションが上がることとか、選手から直接聞きました。

実際やっている選手を観に来てくださる方、そしてそこに出ていただくイベントの演者の皆様のモチベーションもすごく上がっている。

それによって、来ていただくゲストも、ものすごくクオリティ高いゲストに来ていただいたってことを聞いています。

今回 4 回計画されている説明会でも、チームとしてはスタッフ、選手、できるだけ参加もさせていただきたいと思っております。

先日ホームゲームで、1 回目の寄附のお願いを、選手が試合後に、出入口でお客様を見送りするときに募金箱を持ちました。13 万 4,564 円いただきました。この日が成人式の日で、議長おっしゃった、大雪の日だったんですけど、私たちホームゲームをやっている目の前で吹雪の中、着物を来た二十歳の皆さんが歩いて行かれる、せめてもと思って入口を開放して、身だしなみチェックして行ってと言って誘って入っていただいて、帰りにはよかったら観て行ってということで、何人か入っていただいたんですけど、彼らの期待の思いもこの募金に入れてくださって、すごく重い募金になりました。

今週、来週もまたホームゲームがあるので引き続き、このスポットを広げていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

(林氏)

岡山理科大学の林でございます。

このたびの市長のご決断並びに、議会のご判断に対して心から敬意を表します。

ありがとうございます。

ちょっと私事で恐縮ですが、理科大学のそばにカフェがございまして、そちらのカフェのマスターと、たまによもやま話をします。

特に歴史の話になるんですけども、私は長崎出身で、山陽新幹線で帰ると、この山陽新幹線沿いに、これだけ広い、水田というか田んぼというか、そういうようなものがなかなかない。それを振り返ったときに、やはり、その開拓された、開墾されたときの先人が、その当時の民、あるいはこれからの民をどう食べさせていくかというようなことを考えて、例えば開墾にあたっては漁民の反対もあったでしょう。そういったことも受けながら、リーダーシップを発揮して開墾していったというようなことが、時のリーダーには、覚悟と行動を求められる、というようなことを話したりすることを重ねまして、大変嬉しいというか、ご決断に敬意を表したいと思えます。

ちょっと前置きが長くなりましたが、そんな中で、ただ、このアリーナというのは、トップスポーツの活動拠点ということもさることながら、やはり岡山市、これからの子どもたち、将来に対してどのようなビジョンが描けるのかっていう、もう少し広げた話をちゃんと言語化して、それをどう伝えていくかという努力を、決してこれ市当局に求めるだけじゃなくて、我々大学もやはり努めていかなきゃいかなという思いもあって、先般から、私どもの仲間で、岡山スポーツ未来開拓会議というものを開催させていただきながら、ビジョン的なものを作っております。

そういったものをぜひ、今後予定されている第三期のスポーツ振興計画の中にも、このアリーナというものを活用して、どう生かしていくかというようなことも、ぜひご議論、加えていただければありがたいかなと思っております。

大学としても、当局に任せることなく、できることは最大限行動して参りたいと思えますので、ぜひ引き続きよろしくお願いいたします。

(三浦氏)

環太平洋大学の三浦です。よろしくお願いします。

体育、スポーツを大学というところで専門にしている立場から、客観的にこの岡山市を見ると、岡山市スポーツ協会が法人化になるのが政令市の中でかなり遅れました。10年ぐらいかかりました。

そういう点でいうと、体育、スポーツということについての価値を我々、大学陣が、まだまだ一般市民に周知できていないなということを反省しています。その分非常に伸び代があって可能性があるな、ということは今、感じています。

このアリーナについても、もうすでにスポーツ庁の方がガイドラインを作成して、推進するようというようなことが進んでいます。

でも、まだまだ市民全員には周知ができてないということについて、行政の責任ではなくて、先ほど林先生もおっしゃいましたが、我々教育関係者も、もっともっと、これは頑張らなきゃいけないということを非常に感じています。

シゲトーアリーナに関しても、結局今、温暖化が進み、気候が大きく変わっています。

ですから、学校で行っていた運動会、体育祭には、熱中症の危険が伴い、屋外は危険です。

そうすると、体育館の中で、安全にスケジュールに則ってやっていきたいというような思いもあって、体育館の利用は、いっぱいいっぱいな状況になっています。

ですから、どんどん社会も変わるし、気候も変わるという中で、プロチームに端を発したこのアリーナ構想というのは非常に時代にマッチした取り組みであるんだろうと思います。

それから先ほど機運の上昇、機運を上げていくというお話もありました。我々は、大学生、あるいは実業団やプロの選手たちをサポートしていますが、やはり、大学生に比べて、プロ、実業団の方は取り組む姿勢が全然違います。命がけで真剣な姿は、なかなか見えません。

試合のときに勝った、負けたというところだけが多くの人の目に触れるのですが、その取り組む姿勢のところを、ぜひ何かの形で、多くの人に知らせていただけると、盛り上がるのではないかなと思っております。

ぜひそういったところも、皆さんで、できること力を合わせて、この機運を盛り上げていけたらいいなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(三村氏)

岡山大学名誉教授の三村でございます。

先ほど、三浦先生と一緒に、1万円の寄附の申込みを吉田さんにさせていただきました。

さて、いよいよ具体的な建設に向けたスケジュールが見えてきまして、まずは正直なところ、ほっとしているところでございます。

先ほど神崎さんから、これまで10年ほどアリーナの問題に取り組んできたというお話もありましたが、私自身も、以前から申し上げておりますとおり、岡山大学として、森田学長の時代から那須学長まで、三代の学長にお仕えしながら、大森市長が就任された際に打ち出された総合政策パッケージに沿って、岡山市のまちづくりのお手伝いを続けてまいりました。

そうした中で、今回のアリーナ建設の議論の流れを見ておりますと、市長選挙や議会の動きを含めて、いわゆる「木を見て森を見ない」状態になっていないか、少し心配に感じております。ここで言う「木」というのはアリーナそのもののことで、「森」というのは岡山市全体のことで。

政令市であり県都である岡山市の施設としてつくるわけですから、アリーナ単体だけを見て議論するのではなく、都市全体の中で、どのような関係性や相乗効果を生み出せるのか、という視点が大切だと思っております。

具体的には、スポーツが持つ教育的な役割、興業としての経済波及効果、そして防災拠点としての安心・安全といった観点から、どのようなアリーナをつくり、どう活用していくのか。地方創生という政策の文脈の中で、これからは「森」として議論していく視座が必要ではないかと考えております。

その中では、プロスポーツチームの活躍を一つの頂点としながら、市民の健康づくりやアマチュアスポーツの活性化、そして子どもたちのスポーツ教育に良い影響を生み出すような仕組みを考えていくことが大切だと思います。

その際、アリーナを通して、都市の品格や人材をどう育てていくのかという方針や実行計画を、市民の皆さんと一緒に考え、共有していくことが必要だと感じております。

例えば、大森市長のもとでは、「ももチャリ」の本格導入にはじまり、県庁通りの整備、西川緑道公園や石山公園周辺の活性化、さらに路面電車の岡山駅乗り入れや延伸、市庁舎の完成などが進んできました。加えて、ハレノワの完成や北長瀬エリアの開発も進んでおり、まち全体として、まさに立派な「森」ができつつあると感じています。

また、経済界の動きとしては、1994年に岡山商工会議所が提唱された「人と緑の1キロメートルスクエア構想」の中でも、アリーナをどこに建てて、どう賑わいを生み出すかという検討が重ねられてきました。こうした産官連携の積み重ねが、今回の寄附金の広がりにもつながっているのだと思います。

一方で、岡山の人口も、いよいよ減少傾向に入っていくと見られています。人口減少に歯止めをかけるためにも、政令市として岡山市が岡山県全体をリードしていく立場から、このアリーナをどう活用していくのか、まさに重要な局面に来ていると感じています。

先ほど長澤さんからもお話がありましたが、私も全く同じ意見です。経済効果も含めて、アリーナが持つ可能性を前向きに議論し、プロスポーツの選手の皆さんの活躍する姿を、アマチュアの方や子どもたちが見て、岡山で暮らすことに誇りを持ち、次の世代へとバトンを渡していく、そうしたアリーナを市民参加でどう作っていくのか、ようやく具体的な議論が始まったと感じております。

本日、そのスタートラインに立てたという意味でも、これからは、それぞれの団体が「自分たちには何ができるのか」「大学として何ができるのか」「スポーツチームは何ができるのか」「経済界は何ができるのか」を考えながら、知恵と実行計画を持ち寄って進めていくことが、何より大切になると思います。

一方で、北川さんからもご指摘がありましたが、アリーナ運営で黒字を目指すとなると、各スポーツチームに求められる役割は、決して簡単なものではないと感じています。

私はファイナンスが専門ですので、金融や財務の観点から見ても、正直なところ、アリーナ運営はかなり大変な事業です。

これまで、日本政策投資銀行さんが提唱されてきた「スマートベニュー構想」などを参考にしながら、全国のアリーナの規模や建設費、運営費といったデータも同行から頂き、学ばせていただきました。また、岡山大学としての立場から、スポーツ庁にも何度も足を運び、情報交換をしてきました。

そうした積み重ねがあって、いよいよ「私たちのまちの、私たちのアリーナ」が動き出す段階に来たのだと思います。ここからは、覚悟を持って前に進んでいくことが大切だと感じております。

昨日、日本政策投資銀行さん主催の勉強会で、今治市から岡田武史さんをお招きして、大変素晴らしいお話を伺いました。

あれほどの力はありませんが、岡田さんの姿勢やファイトに学びながら、本日をスタートとして、私たちも微力ながら、隣にいらっしゃるスポーツ専門の先生方と一緒に、大学の立場から歩んでいきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願いします。

(田口顧問)

最後になりました。

皆さん大変ご苦労さまでございました。皆さんの並々ならぬ決意、そしてこれからの見通しを含めた議論というのは本当に、聞かせていただいて、また、見させていただいて、我々議会としても本当に責任の重さがあるなと痛感しております。

我々議会も、一生懸命これから当局がこうした検討委員会の中でご議論を経て、またいろんなものを出していく、議案として出していく、また、報告を受けて、その中でしっかり議論をし、そして、結論を出していくということをお約束したいと思います。

そして、その結論は、前を向いていける結論であるよう今後とも頑張っていきます。

政令指定都市岡山市として、これから広域行政を担う上でも、やはり、この岡山市にとってアリーナというのは必須、あって当たり前のものだということを市民の皆さんにも広く認識をしていただいて、これから市民にとって、そして岡山市にとってすばらしいアリーナを皆さんと一緒に議論しながら作りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

今日は大変ご苦労様でございます。

(大森座長)

どうも皆さんありがとうございました。

全体を通して、ようやくスタートラインに立った、これから前について歩んでいこうということをお願いいたしました。ありがとうございました。

私からもう2点、ちょっと申し上げたいと思います。

やはりこの何人かの方がおっしゃったんですが、アリーナ単体でモノを考える、これも重要ですけど、広い意味でまちづくりはどう寄与していくのか、このまちづくりっていうのも、この中心部ないはその周辺ということとともに、もっと広い岡山の中で、このアリーナがどうワークしていくのか。そこを考えていかないといけないと思っております。

そういう議論をこれから、ようやくスタートラインに立てましたので、合わせて整理をしていきたいと思えます。

それから、あとはちょっと各論的な話なんですけど、羽場さんから、試合で動画を流しているっていう話をいただいたのですが、実は話題になっている二十歳の集い、そこでも動画流したんです。

そうすると、外に出ている人が多いもので、なかなか反応聞けないんですけど、やはり食い入るように見てる人もいて、私は実態をわかっていただくには、動画を見るっていうのがいいのかなというように思っております。

様々なところで、こういう機会があるんで、貸してくれっていう話であれば、どんどん事務局に言っていただいて、全体にご理解いただくようお願いしたいなと思えます。

もう1つ、これ、中島さんね、トライフープのこの前の試合で、ハーフタイムでアンジェラが歌ってくれたでしょ。アンジェラの歌は本当に上手いのですけれど、音響効果でなかなか聞き取れない、そこにスポットラ

イトもない、ということで、このままではいかんっていうのは少し思いました。

多分ね、何も知らずにあれを聞いたらこんなもんなのかなと思うんですけど、アリーナはこういうもんだっていうのがわかっていけば、本当のアリーナでこういう歌を聞いてみたいっていうように思っていくんじゃないかな。

だから、先ほどの動画の話とリンクするんですが、あれを聞いていて、私はトライフープに勝ってくれと思うと同時に、そっちの方も思いました。

それから、高田さんの方でね、13万円の寄附、私はフェイスブックを見て久しぶりに感激するフェイスブックを見さしてもらったんで、寄附を集めている姿を見て。

そういう面では、我々も見習わないといかんのかなと思った次第であります。

三村さん、三浦さんからご寄附をいただいたということなんですけれども、一人一人に我々もきちっと声をかけてやっていくっていうことを、これからもさせていいただいて、みんなで作るアリーナというように持っていきたいと思っております。

私からは以上ですが、それぞれの委員の方のお話を聞いて、追加のご意見などありましたら、お願いしたいと思えます。

よろしいでしょうか。

では事務局にマイクお願いします。

(事務局)

それでは最後に、今後の本検討会議の予定についてお知らせいたします。

このあと、アリーナ整備運営事業者の選定等支援業務、いわゆるアドバイザー契約の受託者を決定し、実施方針や要求水準書の作成に取り掛かります。

こちらは本年9月ごろの公表を予定しておりますが、公表に際しましては、事前に本検討会議のメンバーの皆様にもご意見をいただきたいと考えております。

つきましては、次回の検討会議は7月もしくは8月の開催となると予定しております。

また、引き続き検討事項等ございましたら、本検討会議を開催し、検討をお願いして参りたいと思えますので、メンバーの皆様方におかれましては、引き続きご協力の方よろしく願いいたします。

(大森座長)

ありがとうございました。

他にないようでございますので、以上で終わらせていただきます。本日は誠にありがとうございました。